



20代から30代の先輩方11人が本校に！ ———天水町若手農業者、事業者に学ぶ会【10月28日】

この会のねらいは、「ふるさと天水町に対する理解と関心を深め、ふるさとに貢献しようとする態度を育てること」です。

先輩方の職種は農業、広告製作業、銀行、看護師、医療相談、空港グランドスタッフ、消防、市役所で多岐に渡りました。どれもが現代のエッセンシャル・ワーカーです。

中学生は先輩方の話を聴く中で、自らの5年後、10年後、15年後を思い描くことができます。中学生世代は、先輩方もそうであったかとは思いますが、多感な時期です。この時期に身近で多様な価値観を持った、ちょっと年上のお兄さん、お姉さんとフラットに対話する機会は貴重な体験です。それは社会参画意識を醸成し、勤労観・職業観を育てるキャリア教育において、このナナメの関係の先輩方との対話がとても効果的であるからです。

しかも本校の特色は、この会を異年齢集団である縦割りの委員会ごとに行っていることです。先輩方のお話をどのように受け止め、どのような質問をし、どのような感想を持ち、どのようなお礼を述べるのかを異年齢間で共有することができます。どの会場も先輩方の話を集中して聴き、熱心にメモを取る生徒さんの姿でいっぱいでした。話の内容によっては、しばらくの間シーンと静寂に包まれる場面もありました。

先週の合唱コンクールの講評では、変声についても指摘されていました。中学校3年間の発達段階の差というのは、こうした身体的な成長度合いや目に見える体型面以上に意識の面で大きいと言えます。今回のように、同じ体験をしたとしても意識面、心理面で異なる実感を共有できる機会だからこそ、学べるものが大きくなると言えそうです。

先輩によっては、話す内容を職場の上席から確認していただいたという方もいらっしゃいました。その職場を代表しているという自覚が話される表情に溢れていました。

お話をされた先輩方から、ふるさと天水の未来を担う後輩への熱い期待も見えた有意義な会となりました。貴重なお話をしていただいた11人の先輩方、本当にありがとうございました。

